

第1回小中一貫教育推進委員会 会議録要旨

日 時 平成26年5月30日午後2時から午後3時

場 所 品川区役所第二庁舎5階251・252会議室

- 教育委員会挨拶
- 委員委嘱
- 委員紹介
- 委員長の選出
- 委員長挨拶
- 議事
 - 傍聴に関する取扱いについて
 - 趣旨説明
 - 質疑および自由討議

【A委員】

この一貫教育の考え方の一つに発達段階を4・3・2で区切って考えていくということがある。分離型としては、そういう考え方をよりどころとして4年までに何を身に付けさせよう、次の3年間で何をというところを考えていく。さらに発達段階の子どもたちからの要請や時代の要請とともに考えて、その上で、地域の特性に応じたカリキュラムを一貫教育の中に組み込んでいけたらいいと考えた。

【B委員】

第IVステージは、中学校区としていくつかの複数の小学校と特色を出すということでカリキュラムマネジメントに取り組んできた。特色を出して、連携校とスムーズにいけば良いが、学校選択の際には、カリキュラムを通して学校選択するということなところには至っていない、子どもの人間関係や学校の評判などで選んでいる、そこが課題である。

【C委員】

今ある全ての一体型一貫校が同じ教育力を増すことによって、品川区の学校全体の学校力をもっと上げる必要があるのではないかと考えている。また、この品川ルネッサンスという時期に際して、私は各学校の特色はもちろん、それが品川区の特色として打ち出せる方向性が必要だと思っている。

【D委員】

分離型の小学校からその連携である一体型一貫校に入る場合、4・3・2の2ステップ目の最終年からの入学になる。この点について、保護者は途中からの子と、下から上がっている子と一緒に

て、どうやって溶け込んでくかを非常に心配している。半年はかかるのではないかといった感じで話が広がっており、そこの学校を避けてしまう現状がある。もう1つは分離型中学校と連携している小学校を卒業しても、その中学が非常に人気であって、連携している小学校から入れないという事情もある。その点を課題として検討していきたい。

【E委員】

保護者アンケートの小中一貫教育が本当に良いと思うかというところで、一体型の方はやはり、「良いと思う」という方が5割を超えて、分かるなという感じがする。分離型となると小中の関わり方がなかなか見えてこないという部分があり、「そう思う」という人と「ややそう思う」という人を合わせても、30%くらいにしかならないのは課題だと思う。

【F委員】

一体型一貫校のことでよく会長さんから話があるのは、小学6年生で卒業式がないため、卒業証書というのがない、それが不満だという声を聞いている。

【G委員】

一貫教育が始まって思ったのは、分離型一貫校の中でも地域的に少し外れてしまっている学校があったり、ある小学校とある中学校の連携はスムーズであるが他の小学校だと距離があったりとか、うまくバランスがとれていないということを知ったり、肌で感じたりしている。今回、一貫教育推進を考えたときに、その差異をいかに少なくしていくかということと、完全に分離型以外に道をとれない中学校、小学校の行く末、未来をどういう形で区民、保護者の皆さん、子どもたちに提言した上で、保護者の理解を求め、不安も払拭していかなければならない。もしくは、カリキュラムベースの話をしたときに、やはり保護者に理解を求めて、勉強してもらわなければならない。本推進委員会はそういうことを全部含めてバランスをとっていくことの第一歩になっていくと考えている。また、気が付いたことは提言していきたいと思っている。

【H委員】

目に見えるような形で。小中一貫教育を推進していった欲しいと思う。

【I委員】

従来から連携型と少しずつ、進学する生徒の数が必ずしも多くなかったり、一つの小学校からいろんな中学校に行っていたり、そうした中で果たしてカリキュラムの一貫性というのはどんな意味をもっているのかと思っている。

【J委員】

全国的に小中一貫教育というのが浸透してきている。そういう意味では、今回の会議では全国的なスタンダードの流れの中で、品川がどういうふうに関わり位置付けていくかを考える必要がある。また、小

中一貫教育は10年経ったので、今何が課題なのか、小中一貫教育は目的ではなく手段という意味で、今、何のための小中一貫教育なのか、何が課題で、何を解決するのか、それは学力かもしれないし生活指導かもしれないし、もっと広い意味での人間形成かもしれないし。その部分を改めてこの委員会で検証して、それにふさわしい新たなプランを立てられれば良いなと思っている。

【K委員】

学校選択制をとっているということで、地域コミュニティ形成の阻害要因になっているのではないかと町会長さんから意見がある。学校選択制を仮に採りいれていない区においても指定校変更の制度でおおむね3割、ほぼ学校選択と同様の数である現状もある。

外部評価について、町会長さんから出ている意見は、一定の人が長年外部評価委員としているのは、新たな改革を生むのではなく、互いに「なあなあ」でやっていて改革を生んでいないのではとの声も受けている。

また、施設一体型の学校と分離型と連携型については、地域にとって大変分かり辛いというような意見が出ている。具体的に先ほど卒業式の話が出たが、小学校入学時から一体型一貫校の学校に入っていれば良いが、途中から入ったり1年生からいても中学校は私立に抜けたりする人は卒業式がないままいくのかと。それで学校選択制で一体型一貫校を選んだらかたにとっては良いが、元々の地元でそこに行かざるを得ない子どもたちの保護者にとっては、ちょっと釈然としないという部分があるというのも意見交換会ででている。

この会議では、できるだけ保護者、あるいは子どもたち、あるいは地域の方から見て、分かりやすく理解しやすい仕組みができればと考えている。

【L委員】

この小中一貫教育について考えていくときに、小学校区と中学校区が整合していないという問題がある。この制度的にはこの学区の見直しをどこまで踏み込めるのかということが一つの問題である。しかし一方では、入学式と卒業式を一つの学校においてセットで考えるという、いわゆる一つの文化だと思うが、その文化を変えるのか、それとも制度として保障していくのかということも両方にまたがる問題もあると考えている。

【M委員】

P T Aや地域で様々な声があるというのは、小中一貫教育がそれだけ地域との結び付きが深まってきているということの一つの表れではないかと思っている。

英語教育にしても市民科にしても、いろんな場面で評価されている状況がある。街の声も含めて、委員の様々な経歴の中で拾ってきたものも合わせて、情報としてミックスしていきこれからの小中一貫教育の在り方を、国にフィードバックできるように検討していければと思っている。

○今後の日程および検討内容について

第2回の小中一貫教育推進委員会を10月頃に、第3回を2月頃に予定している。また、来年度、平成27年度の1月にはフォーラムというかたちで一定の方向性について、区民、保護者の皆さんに報告したいと考えている。

○ 事務連絡

○ 閉会